

3. 各グループ報告

3.1. 図書館管理グループ（旧図書館庶務課・整理課）

9月に事務機構改革により、図書館庶務課、整理課が合併し、図書館管理グループと名称を変更した。この改革で一つのグループ組織となり、これまで図書館庶務課・整理課を合わせた専任職員数が17人から14人に減少した。この減員分の仕事について、業務の見直し、グループ員への配分を行なった。しかし、2007年度は、文部科学省の特色GP採用、国立情報学研究所の採択を得た機関リポジトリの構築、マンガ図書館構想の実現等々、業務量の増大に伴う激務の中でグループ員が業務を行なってきた。

3.1.1. 図書資産データベースの完成について

2006年度から2007年度に亘り、政策経費によって作業を進めてきた図書資産データベース構築が漸く完成した。図書資産データベース構築は、これまで会計監査の折にその構築を公認会計士から指摘されてきた事項であった。このデータベースの完了により図書館の図書資産額が明確となった。しかし、雑誌の評価額（とくに製本費）について課題が残されている。

3.1.2. 助成金取得

図書館に関わる助成金獲得のため、助成金対象項目の掘り起こしを行い、2006年度の1億3千万円から2007年度は内示額レベルで1億5千万円超を得た。

教育・研究環境の充実のため特別予算措置として約3億4百万円が配付され、デジタル資料の購入と資料のデジタル化を実施した。これらの選定作業、発注作業、整理作業、システムの構築に図書館管理グループが業務として携わった（特別予算措置については、1.4を参照）。

3.1.3. 2007年度除籍について

2007年度の除籍は3回実施した。上期（2007年9月）は9,614冊（和漢書7,409冊、洋書2,205冊）、下期（2008年2月）に20,970冊（和漢書16,652冊、洋書4,318冊）の除籍を行なった。第3回目は、前述した図書資産データベース構築に伴い欠品図書の除籍が必要となり、44,272冊（和書37,979冊、洋書6,293冊）の除籍を2008年2月に行なった。

3.1.4. 博物館図書室の整理処理

博物館図書室の図書について、2005年度から図書館が整理を担当してきた。新刊書の整理に加え、既存の図書のデータ遡及を実施してきたが、遡及作業は遅々として進まないため、政策経費を要求し、2007年度から2008年度の2年間で一挙に行なうこととし、紀伊國屋書店に業務委託をした。2007年度の整理冊数は30,041冊。

3.1.5. データ整備業務

データ整備業務を明大サポートに業務委託し、2003年から行なってきたが、漸く2007年3月で、データ整備が完了した。

3.1.6. 田中惣五郎・陽兒氏旧蔵書の整理

2006年に寄贈された元文学部教授田中惣五郎氏、同氏の長男で元東洋大学教授田中陽兒氏の旧蔵書の整理が完了した。総数は和書254冊、洋書1,517冊。

3.1.7. システム関連業務

システム関連業務として、つぎの作業を行なった。OPAC、NACSIS Webcat、Science Direct、ProQuestなどの様々な電子情報源を一括して検索することができる統合検索ソフト・リンクリゾルバ(OVID)を導入した。目録検索システム(WebOPAC)機能の改善を行なった。図書館ホームページの全面的改訂を実施した。

中央・和泉・生田図書館の施設サービス関連では、中央図書館マルチメディアコーナーのリリースと拡充、和泉図書館パソコンルームの改修・パソコンの増設によるマルチメディア機能の

充実、生図書館のパソコン、ネットワーク増設によるマルチメディア機能拡充を図った。また、中央・生田図書館にノートパソコンの自動貸出ボックスを導入した(中央・和泉図書館にノートパソコン各 30 台配置)。

本学学術成果リポジトリの立上げ、構築作業をシステム担当が行った。(1.4 を参照)

3.2. 中央図書館グループ(旧総合サービス課)

中央図書館が開館して7年が過ぎた。2007 年度開館日数は 337 日を予定していたが、麻疹感染防止のための休講措置がとられ、そのため臨時休館日が 5 月 26(土)～6 月 3 日(日)(5 月 31 日は館内整理日のため除く)となり、また、大型台風接近に伴い 7 月 15 日(日)、停電のため 8 月 25 日(土)～26 日(日)が休館となった。これにより開館日数は 11 日減の 326 日となった。

3.2.1. 貴重書庫改修について

現貴重書庫と隣接する現図書館システム室(マシンルーム)をあわせて貴重書庫とする改修工事を行い、2007 年秋に完成した。これにより、収納スペースが拡大し、すべての貴重書並びに未収納の和装本の収納が可能になった。

3.2.2. レファレンスカウンターでの図書返却サービスの状況

2006 年 4 月に返却ポストの設置時間を変更し、開館時間中(貸出カウンターがクローズ)は返却ポストを撤去した。その後、図書の返却が不便であるという指摘があり、レファレンスカウンターで図書返却の受付を開始した。2007 年度は特に問題なく運用している。

3.2.3. 各種図書館ガイダンスの実施

館内フリーツアー、ゼミツアー、大学院・専門職大学院・法科大学院新入生ガイダンス、文学部 3 年次生ガイダンス、留学生ガイダンス、大学院生文献検索ガイダンス、情報検索講習会等を実施した。これらのガイダンス、ゼミツアー、講習会等の参加者延べ人数は、合計 3,188 人であった。

3.2.4. 明治大学図書館所蔵「蘆田文庫古地図」電子展示

昨年に引き続き国立情報学研究所主催のオープンハウスで 6 月 7 日、8 日に「明治大学図書館所蔵蘆田文庫古地図」電子展示を開催した。パソコンを用いて古地図の高精細画像データのデモと説明を行った。

3.2.5. ギャラリー展示

中央図書館ギャラリーの展示は、「聖書の挿絵」(5 月 18 日～6 月 24 日)、「図書の文化史」(7 月 5 日～9 月 13 日)、「美術・生活文化としてのコトワザ展」(9 月 20 日～10 月 5 日)、「尾佐竹猛展」(10 月 12 日～1 月 8 日)、「書物で繋がる明治大学とケベック州」(1 月 18 日～2 月 16 日)、「新収貴重書展」(3 月 18 日～5 月 8 日【予定】)を開催し、好評を博した。

なお、ケベック州展については、1 月 22 日カナダケベック州政府国際関係大臣・フランス語圏大臣、モニク・ガニオン・トランブレ氏以下州政府関係者および本学のケベック学関係者を招待して、納谷廣美学長出席の下、ケベック文庫プレート授受式を行った。

3.2.6. 多目的ホールの利用

通常は閲覧室として利用されている多目的ホールは、①図書館の蔵書とサービスを語る会例会(6 月 13 日、10 月 26 日)②アフリカ文庫講演会「マダガスカルー昨日・今日ー」(10 月 18 日)、③特色 GP ワークショップ「図書館の持つ教育力について考える」(3 月 11 日)が開催された。その他に全学部統一入試の会場にも使用された。

3.2.7. 書庫内書架横板付着錆びの除去

前年度は書架のカビ除去を行った、その際に横板の錆びも合わせて除去したが、本年度も引き続き錆びの除去を関係部署に依頼して約 200 枚の修繕を行った。

3.2.8. 大学主催環境展への参加

リバティタワー1階で開催された環境展期間(12月10日～14日)において、図書館が所蔵する環境問題に関する図書のリストを配布することにした。内容は今年度に本学教員が執筆した環境関係図書(34冊)の一覧リストであり、リスト作成と同時に当該図書を図書館入り口に展示した。

3.2.9. ローライブラリーの開館日の増加

法科大学院利用者の要望を受けて、中央図書館館内整理日(11月28日、2月29日、3月31日)にローライブラリーを開館した。年度の途中につき開館時間は9時から16時とした。次年度からは、休日開館時間と同様に10時から17時開館を予定している。なお、ローライブラリーの定期清掃は、開館時間前に行うことで、関係部署と調整した。

3.2.10. 入庫フリーの実施

2006年度事業ですべての書庫内資料にバーコードラベルと無断持ち出し防止用磁気テープを装着した。これにより書庫内資料の自動貸出機対応が可能になったばかりではなく、かばん等の持ち込みも可能になり、2007年度からは入庫の際の図書館利用証・学生証のチェックを廃止した。

3.2.11. 雑誌書庫の改善

図書館地下2階2層には雑誌のほか、レファレンスブック、大型図書および書誌・書目を配架している。これらの資料のなかでも、雑誌の増加が著しく、別置や横配架で対応してきた。しかしながら、その作業のための恒常的なマンパワーとスペースの確保が、雑誌業務全体の業務を圧迫し、業務の省力化に逆行する状況となっていた。これを改善するために、生田保存書庫への雑誌の第2次移転計画も検討されたが、どの雑誌も利用頻度が高く、移転した場合のサービスの低下を免れず、他の手段を検討することにした。その結果、地下1階と地下2階に分散配架していた書誌・書目を、地下1階に集中することにし、地下1階の旧大型横置き本コーナー空棚を活用して書架の大移動を行った。これにより、地下2階の雑誌書庫に70連の空棚を捻出することができた。

3.2.12. 投書の回答

新図書館オープン以来、投書箱を設置して利用者の声に耳を傾け、図書館サービスの改善に努めている。本年度は73件の投書があった。その多くは、音に対するクレームであった。電卓・パソコンの指定エリア以外での使用、筆記音やエレベータ待ちでの談笑が主なものである。また、資料の配置場所を示すサインが不足しているとの指摘もあった。過剰な掲示を慎む一方、入館口にマナーを喚起するチラシを配置し、巡回を強化して館内の環境整備を進めた。またOPACを利用した配架マップの作成作業も開始し、画面上で資料の所在が分るように改善する予定である。

3.3. 和泉図書館グループ(旧和泉図書課)

3.3.1. 図書館リテラシー教育活動

学部間共通総合講座「図書館活用法」は、教員、図書館各グループ職員により、和泉校舎では前期、後期あわせ4コマ開講している。これとあわせて図書館リテラシー教育の一環として、少人数授業を対象とした「ゼミツアー」を前期、後期とも実施している。本年度からOPAC・各種データベース利用実習をツアーの内容に追加した。前期96クラス1826名、後期46クラス702名が参加したが、これは和泉校舎にいる学生の約23%にあたる。さらに多くのゼミの参加を受け入れるには、特に実習スペースの面で限界があり、パソコンルーム1の改修で施設面の改善を図る予定である。

3.3.2. パソコンルーム1の改修

年度末に、特別予算によりパソコンルーム1の改修を行った。従来、オープンPCおよびモバイル情報コンセント備えPC利用の環境を提供してきたが、この改修でデスクトップPC20台を設置することができた。第一の用途は、図書館ゼミツアーの情報検索実習の教室として使用することである。実習が行われない時間は、利用者用パソコン室として開放の予定である。これにより和泉図

書館では従来なかった情報機器利用サポートの業務が 2008 年度から新たに発生する。

3.3.3. 研究棟改修に伴う資料の移転

2008 年度開設が予定される国際日本学部教員用の研究室を確保するため、研究棟の改修工事が年度末に実施された。この改修により、従来あった各分野の合同研究室が廃止され、AV 棟（2008 年度から「リエゾン棟」に改称）2 階に新たに共同書庫と共同研究室が設置されることになった。これにともない和泉図書館では、合同研究室、資料室、旧教員控室等に置かれていた図書館図書、雑誌の回収、移転作業を行った。この結果、研究棟所在図書総冊数 8,013 冊のうち、2,114 冊（全体の 26%）を共同書庫へ移転、5,899 冊（全体の 74%）を図書館へ回収した。また雑誌についても 205 タイトルが移転対象となるが、この扱いについては現在和泉図書館で検討中である。

3.3.4. 杉並区図書館ネットワーク

杉並区立図書館、明治大学、女子美術大学、高千穂大学、東京立正短期大学、立教女学院短期大学の参加による杉並区図書館ネットワークにおいて、杉並区民、および参加大学図書館への開放（閲覧・貸出）を実施している。また、同ネットワークの企画事業として講演会『入江観の世界』（講師：入江観女子美術大学名誉教授）を 10 月 6 日に杉並区立中央図書館で開催した。さらに、初の試みとして、各種「情報リテラシー講座」（6 月 17・18 日：杉並区立図書館職員対象、9 月 5 日：杉並区民対象、3 月 26 日：杉並区立図書館職員対象、いずれも本学館員を講師派遣）を実施した。

3.3.5. 旧館 2 階トイレの改修

和泉校舎施設整備の一環として、夏期休業中に旧館 2 階男女トイレの改修を行った。新図書館建築の計画があり、この時点での改修にはためらいもあったが、和泉図書館を現在利用している学生の利便を考えた理事会の決定であった。

3.3.6. その他

例年実施している『図書館講演会「著者と語る」』は、9 月 10 日の新事務機構発足による人事異動等への対応のため、今年度の開催を見送った。

3.4. 生田図書館グループ（旧生田図書課）

施設の老朽化対策、書庫の狭隘化対策等の各種工事により、一部の設備が大幅に更新・改善された。これらの工事は、書庫工事を除き年度末に集中的に行われ、生田図書館では新たな試みとなるギャラリー設備の新設、マルチパソコン増設など、来年度早々から生まれ変わった図書館が動き出すこととなる。

3.4.1. B2 書庫電動周密書架増設工事

B2 書庫は、書架の 2 分の 1 が電動集密書架であったが、残り部分は固定書架であった。このため懸案事項となっている狭隘化対策として、電動化されていない固定書架部分を電動集密化する書架増設工事が行われた。まず 2007 年 8 月 20 日～31 日に行われた第一期増設工事では、B2 書庫 4 分の 1（固定書架部分の 2 分の 1）が電動集密書架化され、39,270 冊の収容冊数増となった。第二期 2008 年 3 月 3 日～25 日では、残り 4 分の 1 の増設工事が行われ、収容冊数 42,560 冊増となり、計 81,830 冊の収容冊数の増加となった。これにより約 10 年分蔵書増加に耐えられる書架が確保されたこととなる。

3.4.2. 利用者用情報機器のリプレイスと充実

利用者用開放 PC として設置しているデスクトップ型計 11 台（内 3 台は CD-ROM 利用専用機）及び貸出ノート PC 計 8 台のリプレイスを行った。特に貸出ノート PC は、OS が Windows98 と古く利用が困難であり更新が急がれていたものである。このリプレイスにより PC の台数はデスクトップ

型計 54 台(内 3 台は CD-ROM 利用専用機),貸出用ノート PC は 30 台と大幅な増加となり情報機器サービスの充実が図られた。デスクトップ型 PC は利用の便を考慮し館内の 4 箇所に分散して設置。貸出用ノート PC は,専用ロッカーを設置し利用者自らがロッカーを操作,セルフでの貸出・返却が可能となるシステムを導入した。なお,2005 年度に玄関ホールに設置したオープンパソコン 3 台は,利用方法などが異なるため撤去となった。

3.4.3. 研究者用個室へモバイルコンセント設置

研究者用個室 3 室にモバイルコンセントが設置された。これにより持ち込み PC を利用して学内ネットワーク及びインターネットの利用が可能となった。

3.4.4. 文庫本・新書の充実

貸出の多い文庫,新書を追加し読書環境の更なる充実を図った。従来の 13 種類に加え,「岩波ジュニア新書」「岩波科学ライブラリー」「ちくまプリマー新書」「ちくま新書」「光文社古典新訳文庫」「白水社 U ブックス」「河出文庫」「平凡社ライブラリー」「ちくま文庫」「ちくま学芸文庫」「サイエンス・アイ新書」「創元推理文庫」「創元 SF 文庫」を追加した。

3.4.5. 「Selected Readings」コーナー設置

外国語に親しむ環境づくりと外国語学習図書の充実のため,海外のペーパーバックを中心に小説等を購入し「Selected Books ～世界を紹介する本のコーナー～」を新設した。利用も多い。

3.4.6. 学習用図書選書方法の変更

職員が中心となって行ってきた学習用図書の選書であったが,これを教員による選書を積極的に取り入れる方法とし,見計らい図書の分野を人文社会系まで広め教員中心の選書へと変更した。理工学部は全 10 学科の学習用選書委員,農学部は図書委員により隔週で月 2 回実施している。読者対象を学生を想定とする学習用図書の選書に教員が参加することで,教員の関心を図書館の蔵書構成や利用に向けることができたことは,図書館運営に大きなプラスとなった。

3.4.7. 推薦図書の複本購入

授業等に必要となる教員による推薦図書は原則として 1 冊の購入であったが,学生が授業で紹介された図書を借りに行っても貸出中で借りることができない状況があり,かねてから教員から複本購入の強い要望があったが,今年度から複本購入の希望がある推薦図書は複数冊購入するようになった。

3.4.8. ギャラリーの新設

コピー室の改修工事を行い,新たにギャラリーを設置した(名称「Gallery 0 (ゼロ)」)。天井吊プロジェクター 2 台や DVD プレーヤーなどを設置し,映像メディア展示にも対応できる設備を整えた。図書館資料の展示だけではなく,授業での使用(例:2008 年 4 月開設の理工学研究科新領域創造専攻・デジタルコンテンツ系の授業)や大学の企画展などにもスペースを提供していく予定である。

3.4.9. 旧館トイレ改修工事

年度末に生田図書館旧館 1 階,3 階のトイレ改修工事が行われた。旧館は 1969 年建築の古い建物であり,臭気で利用者から毎年苦情が出ていた。大幅な変更点は①男女の部屋を入替え,面積の広い方を女子とし,女子の便座数が 2 基から 4 基へ増設。②3 階トイレ入口扉を 2 重に設置すること匂い漏れに対処した。

3.4.10. 椅子の大幅入替え

第一開架閲覧室および各グループ閲覧室,OPAC 端末用の椅子を計 200 脚購入した。いずれも 1969 年,1989 年の開館並びに増築時に設置したもので破損・汚損の著しいものであった。